

# 多様化する女性のボトム

## 年代を問わず、はかれる「パンツ/ズボン」

「おしゃれ白書'94」  
より

女性と男性の服装の違いといえば、真っ先に思い浮かぶのがスカートとズボンです。事実、公衆トイレのマークはスカートとズボンによって区別されています。

ですが、今回のデータで見るかぎりそのような思い込みがゆらいでしまいます。

「あなたがふだん外出する時、はいているのは次のうちどれでしょう？」という問に対する答えから、女性のボトムの選択に、なにが起きているかを見てみます。

このレポートは昨年度ポーラ文化研究所が実施した15歳から65歳までの女性1050人のおしゃれに関する意識と行動調査の結果から報告するものです。

全体の結果は「おしゃれ白書'94」としてまとめております。

生活全般に関する意識と行動と化粧実態や化粧意識とおしゃれ観を総合的に調査したものです

95年 4月  
ポーラ文化研究所  
担当 岡林, 高谷

# 1、調査概要

「おしゃれ白書 '94」

年齢と属性	人数
高校生	75
大学生	75
19-23歳	75
24-29歳(未婚)	75
24-29歳(既婚)	75
30-34歳(未婚)	75
30-34歳(既婚)	75
35-39歳(未婚)	75
35-39歳(既婚)	75
40-44歳	75
45-49歳	75
50-59歳	75
60-65歳	75
合計	1050

調査対象者：首都圏30km圏内在住の女性

調査対象者抽出法：エリアサンプリング法

実施時期：94年7月-8月

調査方法：個別訪問面接聴取および留置法の併用

## 2、本レポートで使用した質問は以下の内容です

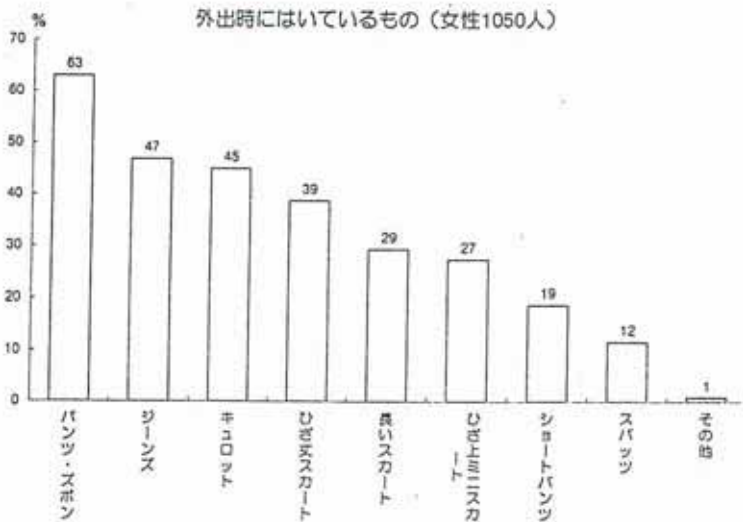
あなたがふだん外出する時、はいているのは次のうちどれでしょうか。あてはまるものにくつでも○印をつけて下さい。(○印いくつでも)

- |              |                  |            |
|--------------|------------------|------------|
| 1. ジーンズ      | 4. ひざ丈スカート       | 7. パンツ・ズボン |
| 2. スパッツ      | 5. ふくらはぎより長いスカート | 8. ショートパンツ |
| 3. ひざ上ミニスカート | 6. キュロット         | 9. その他( )  |

## 1) 全体の結果

下の図にあるように一番多いのは「パンツ・ズボン」です。

やっと4位に「ひざ丈スカート」がきます。



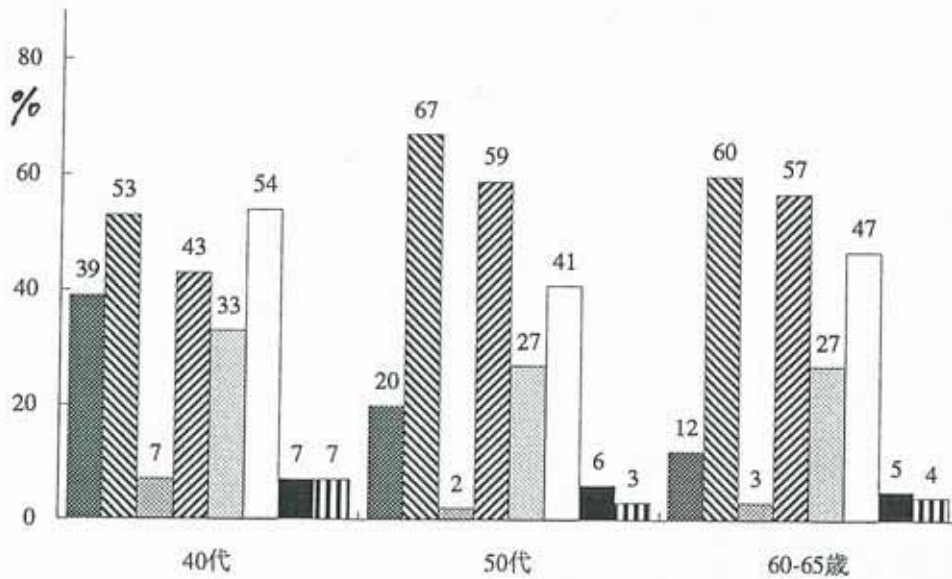
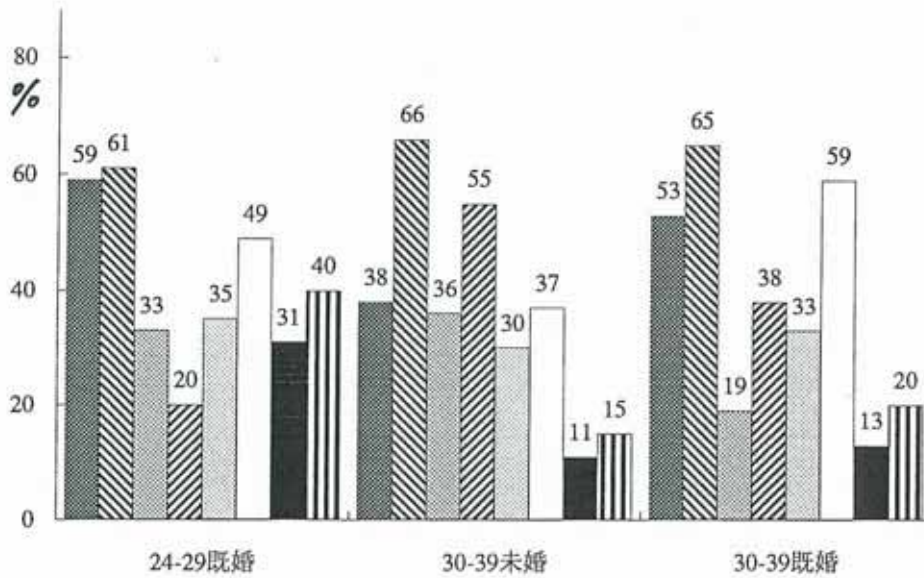
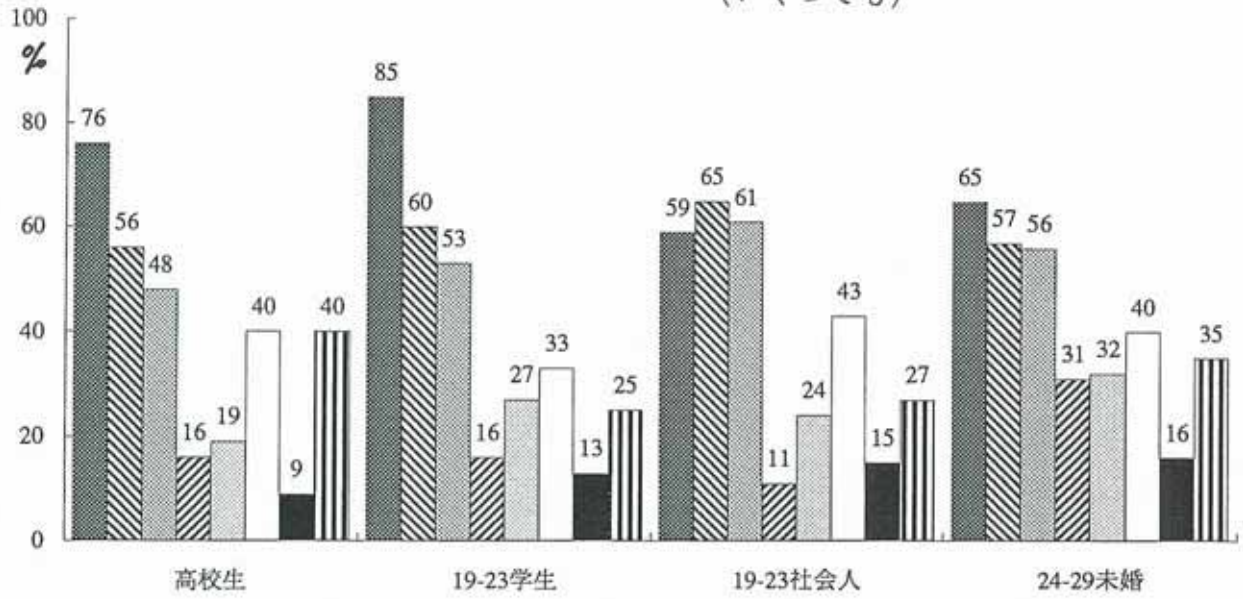
## 2) 年齢別に見た場合（グラフは次のページにあります）

高校生から20代の未婚層までは共通の特徴があります。3大アイテムは「ジーンズ」「パンツ/ズボン」「ミニスカート」です。「ひざ丈スカート」や「長いスカート」はほとんどはかれず「キュロット」や「ショートパンツ」が好まれています。調査時期が夏であったこともあると思いますが、若い人の活発な姿が浮かびます。

20代と30代の既婚層の人の特徴は、「ミニスカート」がぐんと減ることです。かわって「キュロット」が増えます。この時期の既婚者は子育てに忙しいからでしょうか。3大アイテムには「スカート」はありません。一方、30代未婚者は「ジーンズ」と「ミニスカート」から離れ「ひざ丈スカート」をはくようになります。

40代にはいると若い人のアイテムである「ミニスカート」「スパッツ」「ショートパンツ」はほとんどはかれなくなります。「ジーンズ」もだんだんに減っていきます。その結果3大アイテムは「パンツ/ズボン」「ひざ丈スカート」「キュロット」となります。「長いスカート」は40代より若い層では3割を超えていたのが、50代、60代では3割を切るようになりますが、激減とはならず、4人に一人以上の年配の方が「長いスカート」をはいています。

あなたが外出する時はいているのは次のうちどちらでしょうか？  
(いくつでも)



- ジーンズ
- ▨ パンツ/ズボン
- ▩ ミニスカート
- ▧ ひざ丈スカート
- ▦ 長いスカート
- キュロット
- スパッツ
- ▤ ショートパンツ

### 3) アイテム別にみた場合 (グラフは次頁にあります)

「パンツ／ズボン」はほとどの年代も6割前後の人がはいていて、もっともポピュラーな定番アイテムと言えます。

「ジーンズ」は高校生、大学生では7割以上が選択するトップ・アイテムですが、その後少なくなり、30代までは半数が選択しますが50代以降は激減します。

「ミニスカート」は20代未婚層までのアイテムです。半数以上が選択しますが、20代の既婚層から急激に少なくなり、30代の既婚層では2割を切ります。「ミニスカート」は子どもと一緒にの生活には全く向かないからでしょう。

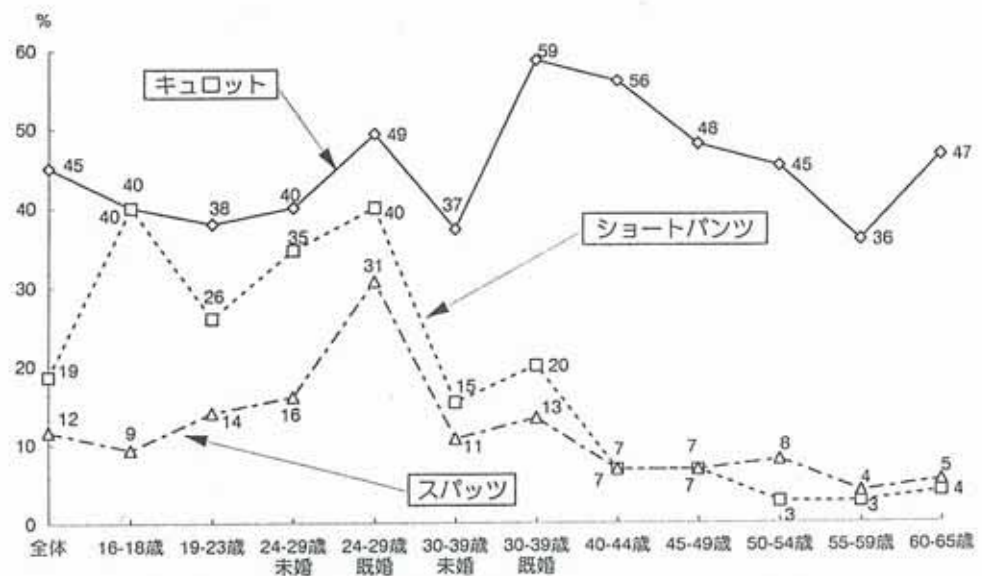
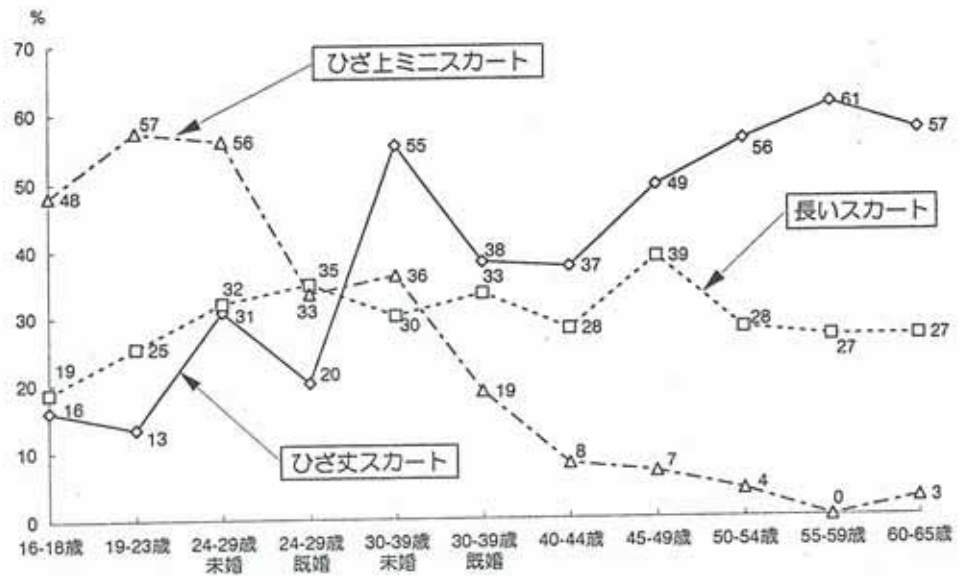
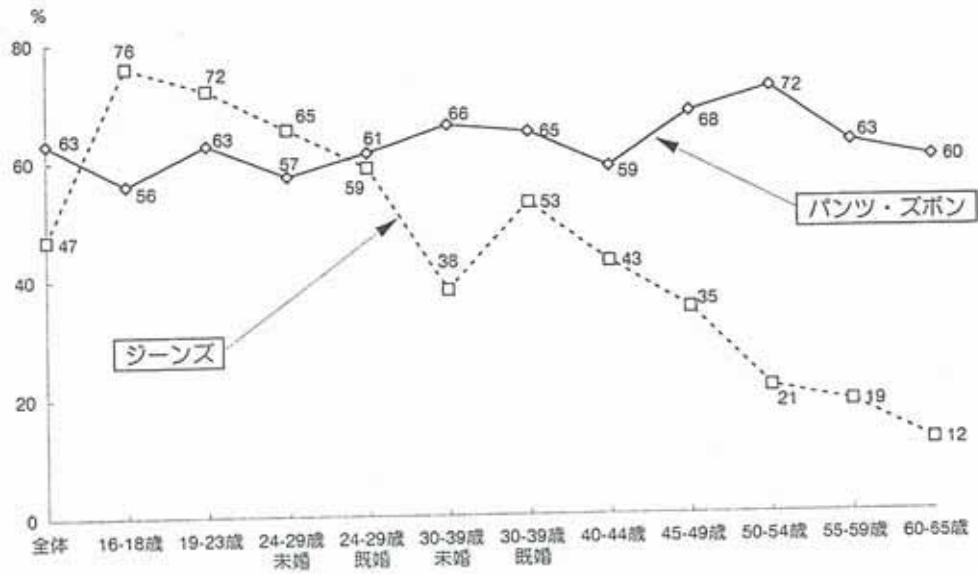
「ひざ丈スカート」は「ジーンズ」のグラフと逆の形を示しています。それでも20代と30代では未既婚によって選択が大きく異なっているのは、ビジネスシーンではやはり「ミニスカート」ではすまない場合があるからだと思われます。

「長いスカート」は、年代による差は少なく、3割前後の人が選択しています。このアイテムのもつある種のテイストが好まれているのだと思います。

「ショートパンツ」は高校生と20代既婚層ではく人が一番多くなります。これは調査時期が7月であった事も影響しているのでしょう。家にいて昼間の暑い盛りに活動するとなればショートパンツは必須アイテムとなります。

「スパッツ」は、「ショートパンツ」よりもさらに脚回りがすっきりして、一層活動的な装いです。脚の形を直接に人目に晒すようで年を取ってくるとなかなか手をだしにくいアイテムです。しかし、20代既婚層は「スパッツ」をはく人が一番多いのです。

「キュロット」は30代既婚層と40代によく入っているアイテムといえます。未婚層よりも既婚層に入っているのをみても、より活動的なシーンにふさわしいのでしょう。「キュロット」だけでは丈の長さが判らないのですが、若い人は当然「ミニ丈」でしょう。



## まとめ

以上をみると現在の女性の生活からスカートが少なくなっている事がよくわかります。特に、「ひざ丈スカート」の変化が大きいようです。

この「ひざ丈スカート」は1920年代にシャネルが大胆にもそれまでの「くるぶしまで」というタブーを破って、一挙に引き上げて実現したスカート丈ですが、第二次世界大戦以降は定番アイテムとして定着していました。しかし現在の若い女性はこれをはかなくなっているようです。

60年代にミニスカートが登場し私たちは新鮮な驚きとともに、一抹の不安を抱きながらも一斉にこれを取り入れました。その後ファッションの世界は、流行から自立した消費者の出現により、スカート丈もアイテムも多様化し続けました。

しかしながら「なんでもあり」の時代の中、長期的にはしっかりした流れが進行してきたようです。それは私たちが自分の実際の生活実感を重視した服装を確実に選びとっていることです。その結果、忙しく活動的になった女性が選んでいるのは「パンツ/ズボン」です。その他では、とにかく脚の回りがすっきりとして脚さばきが楽なものが好まれています。動き易さや機能性が重視された結果でしょう。

反対に、スカートをはく時は、むしろ思いっきり長いもので、本来のスカートらしさを持つものを好んでいるようです。つまり、脚にまわりつくけども、女っぽくて優雅で体型も程よくカバーしてくれるものを堪能したいと思っているのでしょう。

一方、「キュロット」というのは、シルエットはスカートのようで、機能的には「パンツ/ズボン」と同じ、とても使いやすいアイテムだったと思います。でも若い人が「キュロット」を離れはじめています。

とするならば、脚の回りをもっとすっきりさせたい女性が増えてきたと考える事ができます。シルエットとしてみるならば「ミニスカート」と「スパッツ」「ショートパンツ」はかなり似ていますから。